

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

## 資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [自己啓発](#) | [福澤諭吉伝 \(7\)](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

### 福澤諭吉伝 (7)

1873年、森有礼、西周ら知識人たちが、明六社という団体をつくり、教養雑誌「明六雑誌」を刊行しますが、諭吉もその一人として、意見や研究を発表しました。

この年、フランスから中江兆民が帰国して、フランスで叫ばれている「自由・平等」の思想を、この国にも広げようとした。

また、諭吉と同じく幕府に仕えた洋学者の加藤弘之は雑誌で、「人は生まれながらにして自由平等で幸福を求める権利がある」という意見を発表しました。

これを「天賦人權説」といいます。

当時の日本社会は、役人と見れば卑屈になって腰かがめてものを言い、相手が貧しい商人と見れば威張った口の利き方になるような風潮でした。

人は皆平等なのに、どうして相手によって態度を変えるのか、諭吉はつくづく教育の必要性を感じずにはいられませんでした。

明六社はこの自由と平等の思想を推し進めるためにも大きな役割を果たしました。

弟子の一人が、「明六雑誌で自由平等を唱えるのは結構だが、雑誌を読まない人も大勢います。

これからは民衆を集めて話をすることも大切ではないでしょうか」と言って、1冊の原書を諭吉に渡しました。

その原書は、「スピーチ」について書いてある本でした。

早速その本を翻訳し、「スピーチ」に「演説」という言葉を当てはめ、その他に「討論」「可決」「否決」などという新語をつくります。

翻訳が終わると、諭吉は塾生を集めて演説の練習をはじめ、翌年の1874年には、「三田演説会」をつくって、学者や塾生たちと、自由、平等、そのほか社会問題などについての討論会を開きました。

この三田演説会は、やがて、国会の開設や、選挙による議会政治の方針を進める役割を果たすことになりました。

諭吉は尊皇攘夷派から、西洋かぶれと、その命を狙われましたが、諭吉の「学問のすすめ」も、その本当の精神は、個人の独立にあり、国家の独立にありました。

諭吉は「独立自尊」という言葉も、しばしば口にしていました。

封建主義は、個人の独立を許しません。

独立心のない人々の集まりである日本が、どうして独立国として、世界の中で胸を張って生きていけるのか、と、諭吉は考えていました。

諭吉が洋学を学んだのは、決して西洋かぶれからではなく、西洋の文明を取り入れて、早く日本も外国に劣らない独立国とならなければならないと思ったからです。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

### Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>>[一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.